

事業所名		プロッサムジュニア ミノ輪教室		作成日		2025 年		2 月		8 日	
法人（事業所）理念				えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるようこび」							
支援方針				・集団療育プログラムの他に「個別療育プログラム」を用直し、その日の「できた！」を連絡帳で見える化（感覚統合、SST、知育、運動、ごっこ遊び等、多岐に渡ります。） ・他者とのかわり方を重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子さまに寄り添います ・じぶんの「やりたい」を大切にしながら、お友だちの「やりたい」も尊重できるひとへ							
営業時間				平日10：30～17：30 土曜・祝日9：30～15：30				送迎実施の有無		あり	
				支援内容				具体的な活動や支援内容			
本人支援	健康・生活	(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、さめ細かな観察を行う。 (b) 健康の確保 食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキル等の獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、教室の目録に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。 例 ・「ロッカー」はできるだけ一つにまとめて、帰りが確認しやすくし、自分の荷物管理を確認できるよう教えます。 ・必要に応じて「個室」で活動と集団スペースでの活動とを切り替えて場面の変化に分かりやすくできるよう設定します。 ・時計やタイマーを使い本人が認識しやすい方法で時間による切り替えを促します。								
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器具や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 感覚の活用 保持する感覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代行手段の活用 保持する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。④キットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、巧緻性などの運動能力を高めます。集中して取り組んだり、ペアやグループで共同して活動する経験を過ごし、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。 例 ・様々な種類の動物歩きで粗大運動を行い、連続して組み合わせることでコーディネーション能力も鍛えていきます。 ・動きを音に例え動作のイメージがつかやすい方法を確認します。 ・カルタや折り紙など指示を用いて目と手を協応して使う活動を行います。								
	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	買ひ物やお店のシミュレーションでお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすいう支援を行います。 例 ・数の認知に声と合わせた確認、紙面上の視覚情報による確認、具体物の指差し確認など、具体的な作業を通して習得します。 ・集団活動の中で活動の目標を限定して利用者同士共有し、ポイントとなる概念を一つずつ印象付けます。 ・集団内でのできごとを集団全体が共有できるようにあり、各々が自分とはどのように思うか、どう行動するかを意見できる場を設けています。								
	言語・コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 具体的な事象や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 発音の指導と発音の支援 話し言葉や各々の文法・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達障害のお子さまなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視覚などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを触れたり触れられたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことばを学べる環境を提供し、日常生活や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくり出します。また、「賢く」「いっしょに遊ぶう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援をします。 例 ・集団活動ではグループワークによる役割ごとの話し方や具体的な言葉を使うプログラムを行います。 ・個別プログラムで興味のある分野を引き出し、関連した言葉を中心に用いて楽しく習得していきます。 ・書きの練習は筆圧の状況を考慮して筆記用具をサインペン、鉛筆などを使い分けてステップを踏んでいきます。								
	人間関係・社会性	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を築き、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから共同遊びへの支援 仲間と子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分のことなど、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手帳やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	事前に視覚的な手帳かりを使って簡潔に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるよう、職員がモデルを示します。 グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しめるようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動やことばのモデルを示します。 例 ・運動のペアワーク等、達成が明確になる状況を作り、協同したこと成功体験が得られる活動を行います。 ・気持ちを表情で確認できるカードを用いながら言語化し、自身でも適切に表現できるように教えます。 ・各季節の行事を集団活動に取り入れ楽しく活動する場面を作ります。								
家族支援		・個別療育や集団療育に行行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、サービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	・必要に応じて学校に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子や他事業所や相談窓口に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校への送迎時、先生と学校での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。							
地域支援・地域連携		・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・相談支援事業所を中心に、園、学校の様子を保護者の要望に応じて共有し、療育につなげます。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りに関しての提案やポイントを共有します。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児発管ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施							
主な行事等		・季節の行事									